



JASIリサーチメモ

R6-05 号 : 2024 年 10 月 28 日

中国軍東部戦区の対台湾演習「聯合利剣-2024B」 —海警船の参加状況を中心に—

防衛戦略研究室 防衛事務官 千綿 るり子

1 事実関係

中国軍は 2024 年 10 月 14 日、対台湾演習「聯合利剣-2024B」を実施した。この演習に合わせ武警海警総隊も 10 月 14 日、馬祖列島及び台湾本島周囲において活動した。さらに演習直後、習近平総書記が福建省の東山島やロケット軍部隊を視察した。

(1) 概要

ア 日時及び場所

中国国防部は 2024 年 10 月 14 日 5 時 2 分（中国時間。以下同じ）、「中国人民解放军東部戦区が同 14 日、台湾海峡、台湾本島の北部、南部及びその以東周辺において、陸軍、海軍、空軍、ロケット軍等の兵力を参加させ『聯合利剣-2024B』演習を実施する」と発表した¹。

そして同東部戦区は同日 18 時 4 分、演習が滞りなく終了したと発表している²ことから、少なくとも同日未明から夕刻まで 1 日間実施された模様である。

イ 重点演習科目及び演習目的

中国人民解放军東部戦区の李熹(海軍大佐)は 10 月 14 日、「艦艇・航空機による台湾本島接近、諸軍兵種統合による突撃、海空戦備警戒パトロール³、重要な港湾・区域の封鎖統制、対海上・対地攻撃、総合制圧権奪取等の科目を重点的に演練する」と発表した。また、演習目的に関して、「戦区部隊の統合作戦実戦能力を検証し、『台湾独立分裂勢力』の独立追求の行動を抑止し、国家の主権を守り、国家の統一を維持するための正当で必要な行動である」と説明した⁴。

¹ 「東部戦区、『聯合利剣-2024B』演習を実施」『中国国防部 H.P.』2024 年 10 月 14 日、
<https://mod.gov.cn/gfbw/wzll/dbzq/16345141.html>

² 「東部戦区、『聯合利剣-2024B』演習を滞りなく終了」『中国国防部 H.P.』2024 年 10 月 14 日、
<https://mod.gov.cn/gfbw/wzll/dbzq/16345339.html>

³ 『中国人民解放军軍語』（中国軍の軍事用語辞典。最新の 2011 年版は軍事科学院作成）によれば、戦備警戒パトロールとは、「発生し得る戦争或いは軍事的突発事件に対応するために行う警戒パトロール」を意味しており、「実戦を目標として、領土、領空、領海の境界で実施される」ものである。『新浪網』2023 年 12 月 29 日。

⁴ 上記 1 に同じ。

（２）演習参加艦艇・航空機等

「中央電視網 Weibo⁵」やシンガポール華字紙「聯合早報⁶」によれば、演習には、空母「遼寧」及び「J-15」艦載機、052D 型駆逐艦「太原(131)」、052DG 型駆逐艦「紹興 (134)」、054A 型護衛艦、056A 型護衛艦「義烏(641)」、KJ-500 早期警戒機、H-6 爆撃機、J-20 戦闘機、J-16 戦闘機、TB-001 無人機、陸軍の長距離多連装ロケット砲、ロケット軍の短距離ミサイル等の参加が確認された。

【空母「遼寧」と発艦する「J-15」】



※出典：『央視新聞 Weibo』2024/10/14 に筆者追記

【駆逐艦「太原 (131)」】



※出典：『央視新聞 Weibo』2024/10/14

【J-16 戦闘機】



※出典：『央視新聞 Weibo』2024/10/14

【TB-001 無人機】



ロケット軍第 61 基地 96816 部隊基地(浙江省東陽市)

※出典：『央視新聞 Weibo』2024/10/14 に筆者追記

【KJ-500 早期警戒機】



※出典：『央視新聞 Weibo』2024/10/14

⁵ 『中央電視網』2024 年 10 月 14 日、<https://m.weibo.cn/detail/5089438390289669>

⁶ 「遼寧艦が初めて台湾包囲軍事演習に参加、解放軍は軍事演習を通じて新しい戦術を蓄積」『聯合早報』2024 年 10 月 14 日、<https://zaobao.com.sg/news/china/story20241015-5120559>

また、台湾軍当局の発表によれば、14日の05時から16時30分までの間、無人機を含め航空機延べ125機（内、90機が台湾の緊急対処空域に進入）、艦艇17隻、海警船17隻が確認された⁷。

【海警の活動海域】



(3) 海警の活動状況

ア 馬祖列島周辺海域

福建海警局は10月14日09時、「東引島及び馬祖島周辺海域において、総合法執行パトロールを実施するとともに、識別調査、乗船検査、管理統制、追い払い等の科目を重点的に演練し、快速反応、緊急対処能力を検証する」と発表している⁸。

イ 台湾本島周囲海域

中国海警局は10月14日08時、「海警2901編隊、1305編隊、1303編隊及び2102編隊が10月14日、台湾本島周囲パトロール・管理統制活動を実施する。これは『一つの中国』の原則に従い、法に基づき台湾本島を管理統制する実際の行動である」と発表している⁹。



※ Google Map を基に筆者作成

2 コメント

(1) 全 般

「聯合利剣-2025B」演習は、台湾の「双十節」(10月10日。建国記念日に相当)式典における頼清徳総統の演説¹⁰をきっかけに実施されたとみられ、同様に頼総統の就任演説を受け行われた本年5月の「聯合利剣-2024A」と比較すると、演習期間は1日で短く、演習設定区域の範囲も小さく(参照：4・6頁)、実弾射撃も確認されず、派手さはみられなかった。

⁷ 「国防部、中国共産党軍の演習胴体を説明、国軍は掌握していると強調」『軍事新聞通信社』2024年10月14日、<https://mna.gqwb.gov.tw/news/detail/?UserKey=0dbb8dc5-b998-42e2-9eca-390bf727f545>

⁸ 「複数の海警編隊、台湾周囲でパトロール・管理統制、東引島、馬祖島周辺海域で法執行パトロールを実施」『中国海警局 H.P.』2024年10月14日、https://ccg.gov.cn/hjyw/202410/t20241014_2511.html

⁹ 「4個海警編隊が台湾本島周囲のパトロール・管理統制を実施」『中国海警局 H.P.』2024年10月14日、https://ccg.gov.cn/hjyw/202410/t20241014_2503.html

¹⁰ 頼清徳総統は10月10日の「双十節」式典で演説を行っており、「中華人民共和国は、台湾を代表する権利はない。国家の主権を堅持し、侵犯や併合を許さない」、「中華民国と中華人民共和国は互いに隷属しない」等の発言が特に中国当局の反発を買っており、中国共産党は「互いに隷属しない」を「新二国論」であり、兩岸の敵意を煽るものと称している。「頼清徳の『新二国論』は台湾海峡の平和を著しく損なうものであり、『温和』、『自制』はどこにもない」『中国共産党新聞網』2024年10月14日。

< 過去の演習との比較 >

	環台湾軍事演習	「聯合利剣」演習	「聯合利剣－2024A」演習	「聯合利剣－2024B」演習
時 期	○7日間: 2022/8/4～8/10	○3日間: 2023/4/8～4/10	○2日間: 2024/5/23～5/24	○1日間: 2024 10/14
背 景	○ ペロシ下院議長の台湾訪問。 ペロシは8/2深夜到着 ⇒中国軍は8/2夜、8/4 12:00から予定海空域で軍事訓練や実弾射撃を実施すると発表	○ 蔡英文總統とマッカーシー下院議長の会談（日本時間4/6未明、ロサンゼルス郊外で実施） 4/7夜、蔡英文帰国 ⇒4/8朝、演習を発表	○ 頼清徳氏の5/20の總統就任演説 ⇒ 中国軍は5/23 08:45、演習を開始したと発表	○ 頼清徳總統の10/10の建国記念日の演説 ⇒中国軍は10/14 05:22、演習の実施を発表
演習区域及び内容	・台湾北部、南西及び南東の海空域で、海空統合訓練 ・台湾海峡で長距離ロケット砲実弾射撃訓練 ・台湾東部海域に向け短距離弾道ミサイルの発射訓練	・台湾海峡、台湾北部、南部及び台湾以東の海空域で、台湾周囲戦備警戒パトロールや演習を実施 ・平潭島長江澳（砂浜）及び羅源湾海域で実弾射撃訓練	・台湾海峡、台湾北部、南部及び東部海空域で戦備警戒パトロールや重要目標の統合攻撃をシミュレート ・海警船が、金門島、馬祖島、烏丘嶼及び東引島で、法執行演練	・台湾海峡、台湾北部、南部及び台湾以東の海空域で、戦備警戒パトロール、重要な港湾・区域の封鎖統制、対海上・対地攻撃等 ・海警船が、馬祖島、東引島、台湾本島周囲でパトロール等を実施
初日の航空機と艦艇の数	・軍用機68機(内、49機が台湾海峡中間線を越境) ・艦艇13隻	・軍用機71機(内、45機が台湾海峡中間線を越境) ・艦艇9隻	・軍用機49機(内、35機が台湾海峡中間線を越境) ・艦艇15隻 ・海警船16隻	・軍用機125機(内、90機が緊急対処区域進入) ・艦艇17隻 ・海警船17隻
実弾種類及び範囲	○台湾周辺6か所に海域を設定 ⇒長距離ロケット砲を実弾射撃。弾道ミサイル4発が台湾上空通過	○福建海事局が実弾射撃に伴う航行禁止海域の設定を発表 ⇒台湾海峡や関連海域で砲弾射撃。弾道ミサイルの発射はなし	○中国海事局による軍事演習に伴う航行禁止海域の設定なし ⇒海域での砲弾射撃なし。陸上では、ロケット砲発射	○中国海事局による軍事演習に伴う航行禁止海域の設定なし ⇒砲弾射撃は確認できない

※『聯合早報』2023/4/9等を基に筆者作成

その一方で、軍用機活動機数の多さや海警による台湾本島周囲での活動、空母「遼寧」の初参加等が注目された。さらに、習近平総書記が演習翌日の10月15日、福建省の東山島を視察したことは非常に目を引くものであり、演習目的の説明にもあるとおり、台湾をこれまで以上に強くけん制する狙いがあったと考えられる。

【東山島の位置関係】



※ Google Map を基に筆者作成



※ Google Map を基に筆者作成

なぜならば、この台湾の対岸にある東山島は、中国軍が従来、台湾着上陸演習の訓練場として使用してきた場所であり、先月も3日から、ヘリ、無人機、揚陸艦、ばら積み船等が参加して東山島の大埕湾周辺海域で着上陸演習が実施されている¹¹からである。

そして10月17日、習総書記が福建省の東山島に続き、安徽省のロケット軍基地を視察したことがさらに注目された。この基地は、視察を報じる中国国営放送の映像から、安徽省池州市に所在するロケット軍第61基地(東部戦区唯一のロケット軍基地)隷下の第611旅団であると考えられるが、この61基地は、その位置関係から台湾対処を主任務にしているとみられる。また、映像には、核と通常弾兼備の中距離弾道ミサイル「東風-26」が映されたが¹²、「東風-26」は最大射程約5,000kmとも言われ¹³、中国国防部報道官はこのミサイルについて、2018年4月26日、既に部隊に配備済みであり、陸上の重要目標物だけでなく、海上の大中型艦艇も攻撃可能と説明していた¹⁴。こうしたことから、習総書記の東山島に続く第611旅団基地視察には、所謂「台湾独立勢力」だけでなく、台湾を支援しようとする米国も対象として牽制する狙いがあったものと考えられる。

【第611旅団を視察する習近平】



※出典：『国防部 H.P.』2024/10/19

【「東風-26」(核・通常弾兼備)】



※出典：『国防部 H.P.』2024/10/19

なお、習近平書記の東山島視察の翌日16日、国務院台湾事務弁公室報道官の陳斌華は、平和的統一を望むとしながらも、「決して武力の使用を放棄することはない」と表明していた¹⁵。

¹¹ 「聯合利剣-2024B」軍事演習後、習近平は中国軍の演習訓練の要地である東山島を視察『聯合新聞網』2014年10月16日、<https://udn.com/news/story/7331/8295847>

¹² 「于澤遠、習近平はなぜ『東風-26』ミサイル旅団を視察したのか」『聯合早報』2024年10月21日、<https://zaobao.com.sg/news/china/story20241021=51993792>

¹³ 同上

¹⁴ 「ロケット軍部隊に装備された新型武器装備は東風-26 ミサイルである」『人民網』2018年4月26日、<https://military.people.com.cn/n1/2018/0426/c1011=29952695.html>

¹⁵ 「国務院台湾事務弁公室、兩岸問題の病巣は頼清徳当局の『独立』追求の挑戦にある」『国務院台湾事務弁公室 H.P.』2024年10月16日。

（２）演習の狙い

今回の中国軍東部戦区による演習には、少なくとも２つの狙いがあったと考えられる。

１点目は、台湾の海上封鎖である。中国国防大学専門家の張弛は、今回設定された設定区域について、台湾本島の北部区域は「台湾独立」の首謀者である頼清徳当局への警鐘、台湾南部区域は「台湾独立」大本営への痛撃、台湾以東海域は、台湾へのエネルギーや資源輸入の「生命線」の遮断であり、外部勢力による「支援線」の遮断であり、「台湾独立」勢力の「逃亡線」の遮断を意味するものと解説している¹⁶。さらに、張氏によれば、空母「遼寧」編隊が第一列島線を越えて西太平洋に入ると同時に、空軍の爆撃機編隊が第一列島線まで展開し「遼寧」編隊と統合訓練を実施したことは、「遼寧」の展開位置から見れば、要衝のルートを占拠して海上に堅固な障壁を形成し、「台湾独立」勢力を抑圧するものであった¹⁷と言う。従って、中国軍としては、台湾が独立を疑わせる言動をとれば、海上封鎖等の行動をとるとのメッセージを発したものであったと捉えられる。

【演習設定区域】



※出典：『央視新聞 Weibo.』2024/10/14 に筆者追記

２点目は、演習から実戦への切り替えである。海軍研究院専門家の鄭宏は、今回の演習は実戦の色が濃く、夜間(参照：２頁の映像)には行動を開始し、その後迅速に機動展開して布陣を構えていることから、中国軍がいつでも訓練から実戦に切り替え可能であることを示すものであったと解説している¹⁸。

玉淵譚天¹⁹も付征南²⁰による話として、解放軍は既に演習中の実践を日常化させる演習訓練モデルを形成しており、軍事力から法執行能力に至るまでを日常化しているという。そ

¹⁶ 「国防大学専門家の張弛、今次演習の背後の意義と策略を分析」『環球網』2024年10月14日、<https://m.huanqiu.com/article/4JpmWWm3qk>

¹⁷ 「遼寧空母編隊の『聯合利剣-2024B』演習参加は、専門家によれば、解放軍の拳はますます硬く」『環球網』2024年10月14日、<https://m.huanqiu.com/article/4JptlyyPe3Q>

¹⁸ 「軍事専門家、解放軍の今次演習には３つの『更に』がある」『環球網』2024年10月14日、<https://m.huanqiu.com/article/4JplqckUVW4>

¹⁹ 中国当局メディア記者或いは専門家のペンネームと考えられるが、細部は不明である。

²⁰ 軍事科学院の研究員とみられるが、細部は不明である。

して、対台湾演習は 2022 年 8 月の演習以降、より実戦的な訓練へと変化しており、定期と不定期の演習で日常化しており、軍と海警の協同モデルからも、この種の演習が日常化していることが見て取れるという²¹。

これら専門家が指摘しているように、今回の演習設定区域は、範囲こそ小さいが、それぞれに何を意味するのかが示されており、また空母「遼寧」の配置にも意味があり、より実戦的で現実味のあるものであり、今後も日常化していくことが予想される。加えて、台湾の言動次第では、対台湾演習が今後、訓練から実戦へといつ切り替わるか分からないとのメッセージを発信する狙いがあったと捉えられよう。

（３）海警船の参加状況

今次演習には中国国営放送「中央電視新聞」の報道によれば、6 個海警編隊が参加したとされ、台湾本島周囲の 4 個海警編隊のほか、馬祖島及び東引島の周辺海域で法執行パトロールが実施されていることから、馬祖島及び東引島海域でそれぞれ 1 個海警編隊が活動したとみられる²²。

具体的には、AIS 情報から、少なくとも、馬祖島の海警編隊は海警 14607、海警 14517 及び海警 14511、東引島の海警編隊は海警 14602 及び海警 14509 からそれぞれ編成されていたと考えられる（参照：8 頁）。この内、馬祖島海域での訓練については、それを報じる映像で、海警「14607」が実際に、台湾公船「PP3571」に対して「ここは中国の海域である」と呼びかける場面も流れており、中国海警局の発表のとおり、海警船が訓練も兼ねて法執行パトロールを実施している状況が確認できる。

【台湾の「PP3571」に呼びかける「海警 14607」】



※出典：『央視新聞 Weibo.』 2024/10/14

【「PP3571」に対し中国の海域と呼びかけ中】



※出典：『央視新聞 Weibo.』 2024/10/14

²¹ 「玉淵譚天、軍と海警の共同での台湾本島包囲！対台湾実戦化演習はまさに日常化している」『環球網』 2024 年 10 月 14 日、<https://m.huanqiu.com/article/4JpnFl4SwT0>

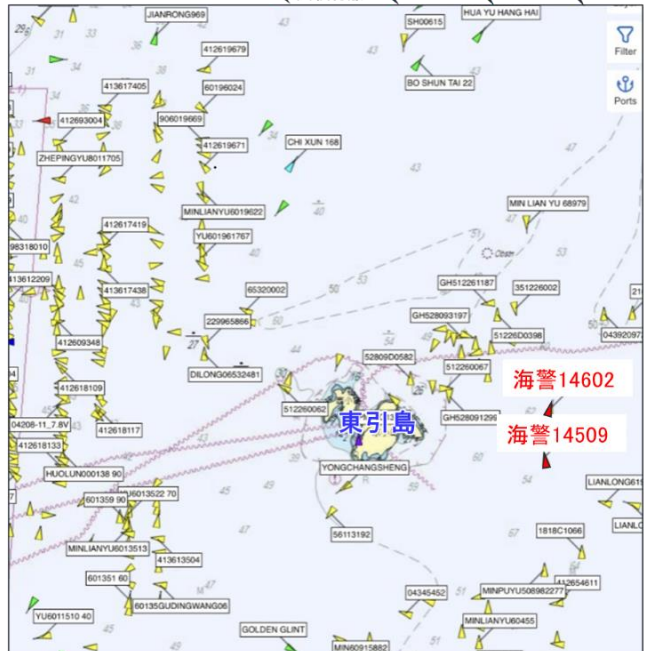
²² 「台湾周囲をパトロールした海警編隊は、前回の倍」『中央電視新聞 Weibo』 2024 年 10 月 14 日

馬祖島海域(10/14 19:24) 法執行船 タンカー 貨物船 その他



※ AIS 情報 (中国の港口ネット船舶追跡) を基に筆者作成

東引島海域(10/14 15:11) 法執行船 タンカー 貨物船 その他



※ AIS 情報 (中国の港口ネット船舶追跡) を基に筆者作成

また、台湾本島周囲で活動した 4 個海警編隊の内、1303 編隊は、演習翌日の AIS 情報になるが、少なくとも海警 1303 (30mm 砲)、海警 1304 及び海警 1105 (37mm 砲) から構成されていた可能性が考えられる。

東引島海域(10/15 17:22) 法執行船 タンカー 貨物船 その他



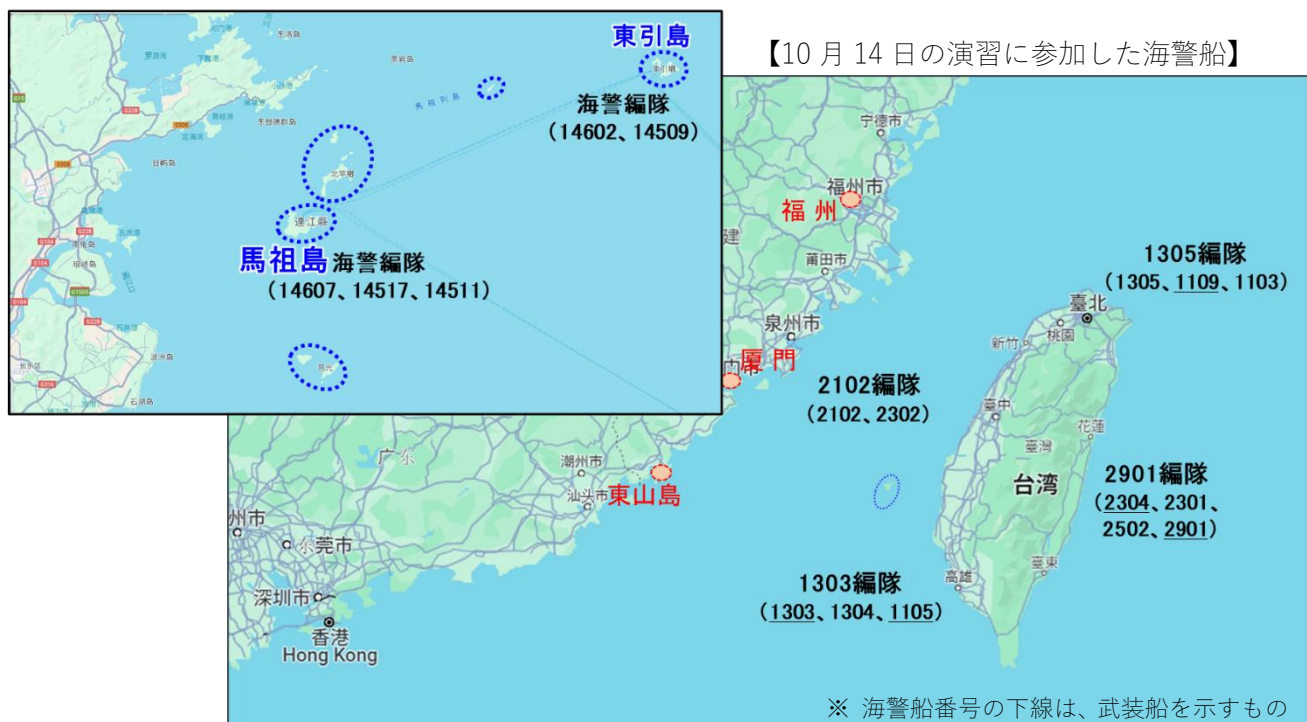
花蓮周辺海域(10/14 23:30) 法執行船 タンカー 貨物船 その他



※ AIS 情報 (中国の港口ネット船舶追跡) を基に筆者作成

海警 2901 編隊は、AIS 情報によれば、海警 2901 (76mm 砲)、海警 2304 (76mm 砲)、海警 2301 及び海警 2502 の 4 隻で構成されていたとみられる。

そのほか、「海洋装備・公務船資訊 Weibo (2024/10/14)」によれば、海警 1305 編隊は海警 1305、海警 1109 (76mm 砲) 及び海警 1103、海警 2102 編隊は海警 2102 及び海警 2302 で編成されていた模様である。



※ Google Map を基に本文に基づき筆者作成

本年5月の対台湾演習「聯合利剣-2024A」では、烏丘嶼、東引島及び台湾本島東部の周辺海域において総合法執行演練が実施されており、14606 編隊（海警 14607 及び 14509）、14607 編隊（海警 14606 及び海警 14506）及び 2304 編隊（海警 2304、2303、2305 及び 2204）の計3個編隊（計8隻）が投入された²³が、今回は倍の計6個編隊（計17隻）が投入された。しかも、海警部隊最大級の「海警 2901（1万t級）」が投入された。

今回の海警船の活動は、上述の玉淵譚天によれば、海警編隊のパトロール経路が固定されておらず、海警船の法執行・管理統制能力が強化されたことを示すものという²⁴。さらに、別の専門家によれば、海警船の台湾本島周囲における活動の重点は、東部戦区各軍種による台湾の重要な港湾・区域の封鎖に加え、台湾本島に対する封鎖網をきつく縛るものであり、「台湾独立分子」の「民間」を口実とした逃避や封鎖突破を防止するものであったという²⁵。

つまり、有事になれば、中国海警船も台湾周囲で乗船検査等の法執行を行い、物資等の調達や台湾本島からの脱出を阻止し、海上封鎖に協力することが予想される。

²³ 「中国軍東部戦区の対台湾演習『聯合利剣-2024A』－海警船の参加状況を中心に－」『JASI リサーチメモ』(06-02) 2024年6月14日。

²⁴ 「玉淵譚天、軍と海警の共同での台湾本島包囲！対台湾実戦化演習はまさに日常化している」『環球網』2024年10月14日、<https://m.huanqiu.com/article/4JpnFI4SwT0>

²⁵ 「中国海警による台湾本島への管理統制の強化には、如何なる深意があるか。専門家、演練科目は『台湾独立』分子の逃亡防止」『環球網』2024年10月14日、<https://m.huanqiu.com/article/4JpoD6qB9g1>

武警海警総隊は、本年 2 月 14 日、金門島海域において台湾当局の取締りにより中国漁民死亡事件が発生したことを受け、金門島海域で海警船による法執行パトロール活動を常態化させ、馬祖列島でも頻繁に活動を行うようになっていた²⁶(参照:11～12 頁)。さらに、頼氏の就任演説を受けて行われた本年 5 月の「聯合利剣-2024A」演習では、台湾本島の東部海域において海警船 4 隻(4 隻とも武装船)が活動しており、今次演習ではついに台湾本島周囲での活動にまで大幅に活動海域が拡大した。

こうした海警船の周辺海域における活動の活発化については、2023 年 11 月 29 日の習近平総書記による武警海警総隊東海海区指揮部の視察まで遡ってみることができる。習近平はこの時、東シナ海や尖閣諸島周辺海域で活動中の海警船に対し、「海上権益維持法執行を効果的に実施し、中国の領土及び海洋権益を断固守れ」と指導していた²⁷。この指導に従ったとみられ、本年 6 月以降、尖閣周辺海域で活動する海警編隊(海警船 4 隻)は全て武装船となり、態勢が大幅に強化されている。南シナ海においても、中国の海警船がフィリピンの公船に放水したり²⁸、巡視船に故意に衝突したりする等²⁹、活動が激化している。本年 9 月末から 10 月初めにかけては、ロシアの海上警備局と合同パトロールを行い、初めて北極海海域にまで進出している³⁰。

このように見ていくと、着実に中国海警船による活動は活発化するとともに、その範囲が拡大しており、特に台湾を取り巻く環境は、静かではあるが急速に大きく変化していると言えよう。

²⁶ 「中国海警局の金門島海域での『常態的』な法執行パトロール」『JASI リサーチメモ』(R6-01) 2024 年 4 月 10 日；同『JASI リサーチメモ』(06-02) 2024 年 6 月 14 日。

²⁷ CCTV13「新聞聯播」2023 年 12 月 1 日。

²⁸ 「南シナ海 フィリピン政府が中国海警船から妨害と発表」『NHK NEWS WEB』2024 年 8 月 25 日。

²⁹ 「フィリピンの巡視船 南シナ海サビナ礁で中国海警局の船と衝突」『NHK NEWS WEB』2024 年 8 月 31 日。

³⁰ 「中露海警艦隊が北極海に到達」『中国海警局 H.P.』2024 年 10 月 2 日。

【AIS 情報に基づく海警船の活動状況】

＜6 月＞ 凡 例： ★艦砲搭載船、■金門島海域所在、■馬祖列島海域所在

2024年6月	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14	6/15	6/16	6/17	6/18	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29	6/30
2101																														
2302																								沖		沖				
14608★(30mm)																														
14604																														
14512																														
14513																														
14515																														
14603																														
14605																														
14609																														
14521																														
14519																														
14507																														
14511																														
14517																														
14607																														
14501																														
14503																														
14509																														
海監8001																														
漁政35129																														
漁政35306																														
PP10082 (台湾)																														
PP10037 (台湾)																														

※ AIS 情報（中国の港口ネット船舶追跡）を基に筆者作成

＜7 月＞ 凡 例： ★艦砲搭載船、■金門島海域所在、■馬祖列島海域所在

2024年7月	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20	7/21	7/22	7/23	7/24	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31
2502																							冲								
2901★(76mm)																							冲								
2303★(76mm)																							冲								
2304★(76mm)																							冲		冲						
2305★(76mm)																							冲	冲							
2203★(37mm)												冲											冲								
14608★(30mm)																							冲								
2302		冲																													
14604																															
14513																															
14603																															
14607																															
14609																															
14519																															
14521																															
14511																															
14605																															
14501																															
14507																															
14508																															
海監8002																															
海監8001																															
海監203																															
海巡1620																															
海巡08201																															
海巡08709																															
漁政35001																															
漁政35921																															
PP3505 (台湾)																															
PP3573 (台湾)																															
PP10037 (台湾)																															
PP10081 (台湾)																															
PP10039 (台湾)																															

※ AIS 情報（中国の港口ネット船舶追跡）を基に筆者作成

<8月> 凡例：★艦砲搭載船、■金門島海域所在、■馬祖列島海域所在

[illegible]

※ AIS 情報（中国の港口ネット船舶追跡）を基に筆者作成

<9月> 凡例：★艦砲搭載船、■金門島海域所在、■馬祖列島海域所在、■玉環島海域所在

[illegible]

※ AIS 情報（中国の港口ネット船舶追跡）を基に筆者作成

【研究者紹介】千綿 るり子(防衛戦略研究室員)

博士(安全保障)。2015 年 3 月、拓殖大学国際協力学科安全保障専攻博士課程修了、博士論文「中国人民武装警察部隊に関する研究－武警部隊と解放軍の関係と将来像－」。専門は中国の準軍事組織(中国人民武装警察部隊、海警、海上民兵等)や中国の宇宙開発等。著書(共著)に2008 年 茅原郁生「中国の軍事力－2020 年の将来予測－」蒼蒼社。

本リサーチメモにおける見解は、航空自衛隊幹部学校航空研究センターにおける研究の一環として発表する執筆者個人のものであり、防衛省又は航空自衛隊の見解を表すものではありません。